

みなと元町

タウンニュース

No.
316

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

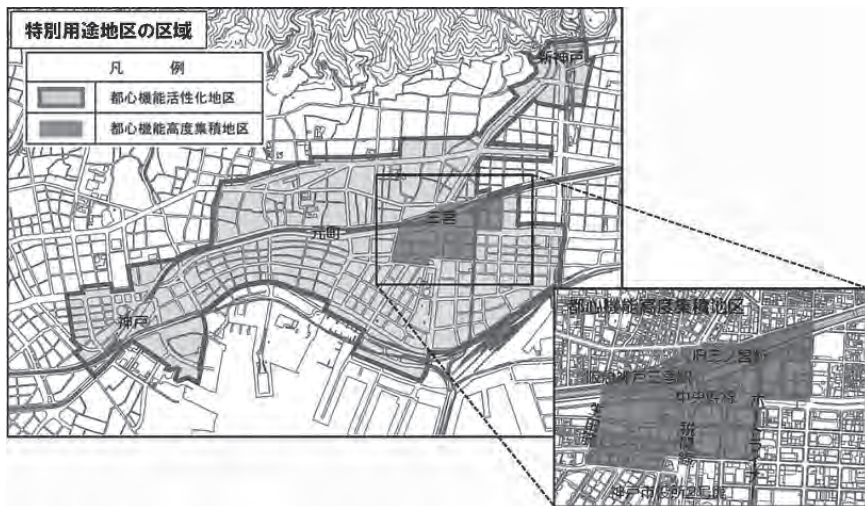
容積率の緩和・制限より神戸版BIDの早期構築を！

ゼンクリエイト 根津 昌彦

神戸市は、先月1ヶ月間、『都心の土地利用誘導施策(素案)』に関する市民意見募集を行った。みなと元町タウン協議会においても、各種会合で神戸市住宅都市局より、施策素案の説明が行われ、ご意見があればいただきたいとアナウンスがあった。「都心の商業地域において、都市機能の活性化とバランス良い都心居住を誘導すること」を目的としたこの施策に対して、対象地域内に土地建物を持っている人から、「〇〇の影響を受ける」というような声が上がるとは容易に想像できる。しかしながら、今回は、エリア内の土地建物所有者もさることながら、不動産賃貸業者、開発業者、とりわけマンションデベロッパーやゼネコンからの意見がたくさん出てきそうな雲行きだ。

この施策に対して意見が集まると予想されるポイントは、**容積率の緩和と制限**である。特別用途地区を指定して、総合設計制度による住宅等を除く用途を対象とした容積率緩和の拡大や、附置義務駐車場の隔地の要件緩和等を掲げる一方で、神戸三宮「えき〜まち空間」エリア内の新規開発においては住宅等用途の原則禁止、その周辺の都心エリアにおいても1,000㎡以上の敷地での開発では住宅等に使用できる容積率を400%までに制限するということが打ち出された。

11月20日の日本経済新聞記事に掲載されている久元市長の言葉からは、「都心のタワーマンションは抑制し、働く場所としてのオフィスや、買い物などを楽しめる場所を誘導したい」「神戸を大阪のベッドタウンにはしない。阪神間や神戸より西の都市からも、人が集まる街にすることが持続可能な都市経営に不可欠」と、並々ならぬ決意が感じられる。しかし、マ



ンションデベロッパーやゼネコンの言い分はこうだろう。(あくまでも推測であるが……)「神戸三宮こそ、山と海の豊かな自然を享受できる最良の都心居住地であり、住宅用途を制限することは神戸三宮の価値を下げ、都市間競争の切り札とはならない」と。

現 状、マンションデベロッパーにとっては、三宮駅半径500～700mの区域でタワーマンションを建設することが法規制上可能な土地は、喉から手が出るほど欲しい物件であり、入札ともなれば相当な高値での応札企業が現れても全く不思議ではない。特別用途地区が都市計画決定された後、用途制限内容が条例化され施行されるのが、現状の予定では2020年度と示されている。これから約1年半の間に、いわゆる「駆け込み申請」が起こる可能性がないわけではない。事実、いくつかのデベロッパーの担当者と話をしている中では、今回のこの土地利用誘導施策に対して、住宅事業を生業としているものとしては、地主へいい提案ができなくなる可能性があるという話も出ている。

これまで高い固定資産税を支払い続

けている地主の立場からすれば、土地を手放すという選択肢で得られる利益が目減りするというように映るかもしれない。ただ、開発事業の観点から、住宅用途しか容積消化ができないという判断を世間の開発企業がしている中、「働く場所としてのオフィスや、買い物などを楽しめる場所を誘導」するための施策が、住宅用途以外の容積率緩和の拡大というのは、いかにも知恵がないように思えてならない。

老 舗のランドオーナーがまちの発展のために土地を持ち続けられる事業スキームを構築したい。そのカギは、容積率を緩和することではなく、建物更新を行った土地の固定資産税の減税と神戸版BIDの実現ではないだろうか。各開発事業で得られるイニシャル・ランニングの利益から、神戸都心のまちの管理を目的とした費用のために資金拠出させる仕組みを作る方が、神戸の街を愛するランドオーナーとともに都市間競争を勝ち抜くために有効だと私は強く思う。

2025年大阪万博開催も決まった。今こそ、神戸市は本気の勝負に出るべきだ。

三町・夢街道

書店の話(18)

日東館①

岩田 照彦

創業者を石丸甚八という。明治三(一八七〇)年一月、甚八は広島県世羅郡三川村に生まれた。家系の詳細はわからない。十八歳のとき神戸にやってきた。明道学校へ入学のためである。

明道学校の源は、山岡鉄舟らが東京で設立した明道教(協)会だ。そこで学んだ目加田栄が、明治一七(一八八四)年、神戸で兵庫明道会を設立、その教えにもとづいて設立した学校であろう。目加田は、仏教思想をもとにした国粋主義者で、和漢の学に通じ、文筆にも秀でていた。実家の信仰心は甚八の思いとも結び合い、目加田という先人のもとへの神戸留学は、その後の生き方をさめる道になったよう

だ。甚八は、同校を卒業すると、宗教新聞の大和魂社に入り編集の仕事を担当する。大和魂社は、明道会の思いをひろげるための対外報道役を担う組織である。新聞編集を通じて明道教を広げる仕事は、甚八にとりやがいのある職場だった。

明治二十三(一八九〇)年、大和魂が掲載した憲法を批判する新聞記事が当局の反感をかい、発行禁止の処分をうける。甚八の人生を方向づける重大な事件だった。新聞が発行できなくなれば、編集部はなくなる。目加田と若い甚八との間で、新聞発行にかわつ

て教を広める方策につき議論がかわされた。

結論は、発行禁止の新聞から雑誌への衣がえである。同社は翌二十四年から雑誌「大和魂」として甚八が製作、発行する。発行禁止処分の大和魂社を発行所とはできなかったのだろう。編集にあたった甚八は、大和魂社の枠にとられない出版事業の構想を温めていた。

甚八は、大和魂社から独立する形で多間通二丁目に書店を開く。「日東館」である。

開業した書店で甚八は、仏教関係のほか宗教関係の本を中心に品ぞろえした。長男の石丸梯次郎は、日本の書店百年(俳青英社刊)紙上で、父甚八のひとがらを語っている。「最初はもっぱら趣味で宗教の本を置いていました。(略)浄土真宗でしたから仏教です」とふりかえり、その人物像については、菊田一夫の「がしんたれ」に、「旦那はんはお情け深いお人やという気がしまして、おすがりにきました」と、貧乏で上の学校に無理してあがるより、いろんな本を、いつでも読めるところに奉公したいと、土下座してお願いにきた(母親の)息子を雇い入れた」当の主人がおやじだった、とも。

明治三十二年、当時、界限ではもっとも地価の高かった元町通五丁目三十四番地へ移転、明治四十一年から柏組長のもと兵庫県書籍商組合の副組長として書店業界の発展に尽力、大正十四年には神戸区会議員に当選、公人としても幅広く活躍した。

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 12月

◇元町6丁目商店街振興組合 TEL367-5477

モトロク市 12月8日(土)11時～17時
(毎月第2土曜日開催)

◇風月堂ホール(有料) TEL321-5555

もとまち密席「趣雅亭」 12月10日(月)

笑福亭 呂竹 林家 染左 桂 わかば
笑福亭 枝鶴 桂 南天 桂 福團治
前売券は11月11日より風月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

12月6日(木)～12月11日(火)
第12回 川崎重工グループ絵画展(油彩・水彩)
12月13日(木)～12月18日(火)
2018彩風会スケッチ展(水彩・油彩)

◇元町映画館(有料) TEL366-2636

12月1日(土)～12月7日(金)「心魔師」
12月1日(土)～12月14日(金)「名前」
12月8日(土)～12月14日(金)
『武蔵野 ～江戸の循環農業が息づく～』・『あみこ』
『世界人権宣言70周年企画 池谷薫監督特集』

12月15日(土)～12月21日(金)「わたしたち」

『上田慎一郎ショートムービーコレクション』

12月16日(日)～12月21日(金)

『こんぶれっくす×コンプレックス & 恋する小説家』

12月15日(土)～12月28日(金)

『祝福 オラとニコデムの家』

『モンキービジネス おさるのジョージ著者の大冒険』

『ポップ・アイ』・『愛と法』

12月22日(土)～12月28日(金)「きらきら眼鏡」

『モーターヘッド/クリーン・ユア・クロック』

12月29日(土)「濱口竜介監督特集」

12月30日(日)「ハッピーアワー」



栄町通クリーン作戦

栄町通クリーン作戦は雨天の為中止となりました。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しております。お気軽にご参加ください。

編集後記

まち発祥の場所を証明する地名として、「元町」は、江戸期、東京の江東区・文京区や横浜市などに生まれ、「元町」を地名にもつ自治体は北海道の札幌市などから鹿児島県の串木野市まで全国に広がる。兵庫県では赤穂・豊岡・姫路の三市に「元町」はある。が、神戸市にはない。明治五年五月、県知事(県令)神田孝平は、大手町・濱町・礼場町・松屋町・中町・西町・城下町・東本町・西本町・八幡町をまとめてつけた名称は「元町通」。町名をまとめる策として「通」を使い、各丁の区画を一六までの数字で表現した。発展する中心街を「通」と「数字」で、地域を簡潔に表現した神田孝平の思考にあらためて感心する。

海という名の本屋が消えた（61）

平野義昌

鈴木商店 その5

住田正一は鈴木商店退社後、国際汽船取締役(1927～43年、昭和2～18年)を勤めながら、青山学院高等商業科で海運交通を講義した。講義中の脱線話というか、海運史こぼれ話・蘊蓄話をまとめ、海文堂書店から随筆集を3冊出版している。そのうちの『桃園雑記』に鈴木商店時代のことが出てくる。「廿年一昔」で、鈴木に入社して学問と実業との相違に戸惑ったこと、世界情勢の変動と学問の潮流変化などを語る。

鈴木の商品は世界各地に及んでいた。扱う商品・展開する事業は多種多様。世界を相手にする鈴木の商品に学問は役立たなかった。一から商売と実務を学んだ。〈考えて見れば、私達は簿記も習わなければ、算盤も知らない。帳面の附け方は勿論、商売上の手紙の一本すら碌に書けなかった。電話の掛け方も頗る下手で、勿論タイプライターの一つも打てるではなし、殆ど役に立たなかった。故に上役から云えば、最も使いにくい者であったに違い無い。〉^{註1}

住田が学生時代、ドイツ流の国家中心の法学・経済学が全盛だった。第一次世界大戦でドイツが負けると、学問もイギリスの自由主義・世界主義が主流になった。ところが、20年経ってみると、国家経済・統制経済の時代になった。学生時代の学問が役に立つようになった、と振り返る。「金子直吉老」で長く側に仕えた立場から金子の人となりを語っている。

本書出版の前年、旧鈴木商店有志が金子に胸像を贈ることにした。金子は礼状で、「悪しき部分を押え、善き所のみを残し、老生の真相を失わさるよう造られたものの如く、寿像としては真に完璧の至りなり」と喜んでいる。続けて、自分に対する評価は生を終えた時に定まるだろうが、胸像はせっかくの芳志なのでありがたいと、と締めくくる。^{補足1}

金子の奇行エピソードがある。帰りの電車内で見知らぬ婦人が席を譲ってくれ、世話をしてくれる。須磨駅で下車し家に向かうが、その婦人もついて来る。心配してくれて親切な人だと思いながら家に着いて、ようやく妻だと気づく。考え事に没頭していたらしい。いくら何でもと思うが、そんな人だった。

金子を随筆の題材にした人がある。住田が芦屋在住の作家・薄田泣菫を訪問した時のこと。住田は趣味の古瓦採集について話し、その後神戸の実業家の話になり、金子の話題になった。薄田は金子の人物像に興味を持ち、雑誌のコラムに掲載した。題は「武士が豚を屠る図」。

日露戦争終結後、著名洋画家・山本芳翠が満洲からの帰途、金子を訪問した。山本は神戸に滞在して絵を描きたいと言うので、鈴木家の別邸を提供したものの、何ヶ月経っても描こうとしない。世話係の女性が、飲んだくれの碌でなし、と呆れる。金子は、絵は急ぎ立ててできるものではない、と悠然としている。1年経ってようやく何枚か描きあげた。金子は喜び、友人知人に買ってもらい、代金1500円を山本に渡した。山本はお礼に日本画を描くと言う。金子は、洋画家が日本画を描くのは

おかしい、と断わる。上機嫌の山本は、日本画経験もある、とお構いなし。金子は「武士が豚を殺し損なって難渋しているところ」をリクエスト。山本は困惑し、布引の滝を描いて勘弁してもらった。山本はしばらく悩んだようだ。帰京後、金子に手紙を書いてきた。武士には武士の務めがあり、屠殺者には屠殺者の仕事がある、洋画家が日本画の真似事をしたのは見間違いであった、と謝罪した。金子は、「嬉しさと悲しさのごっちゃになったような表情」だった。^{補足2}

金子は仕事一辺倒の人ではなく、芸術に理解があった。大物画家に説教めいたことをした後悔かもしれない。

住田は金子の交渉上手の例として船鉄交換交渉を挙げる。本稿「松方コレクション」の章で第一次世界大戦中のアメリカによる鉄の海外輸出禁止について言及した。日本の造船業はじめ重工業、鉄輸入元・鈴木商店にとって死活問題である。政府・経済界の交渉も難航した。川崎造船所・松方幸次郎は海外で、金子は日本で、連携して交渉に当たった。1918(大正7)3月18日、金子は後藤新平の紹介状を持ち、アメリカ大使館に新任のローランド・モリス大使を訪問する。通訳は英字新聞「ジャパントाइムス」主筆・頭本元貞(ずもと・もとさだ)。

住田はこの会談で初めて金子が船鉄交換を提案した救世主のように書いている。だが、事実は少々異なる。日本の造船会社や商社がそれぞれ単独で交渉をしてきたものを金子が一本化した。アメリカは鉄1トンに船2～3重量トン、2ヵ月以内に20万重量トン引渡しなどを要求していた。現在と同じ貿易不均衡は正、アメリカは強気である。金子は川崎造船所が船を最も多く引き渡せると言い、松方の電報を見せた。松方の交換条件は鉄1トン対船1重量トン、アメリカが3重量トンと言う鉄以外の付属品一切切っを含めること、と主張。アメリカも輸送船をドイツUボートに沈められていたから交渉を長引かせたくなかった。モリスは本国と協議、モリスの進言で1トン対1重量トンになった。^{註2}

金子はモリスの経歴を調べ信頼できる人物と判断し、駆け引きをせず、ひるまず強気の条件を提示した。金子は冷静だった。住田に、英語は分からないがモリスの顔色や口の動きで話がわかった、と打ち明けている。^{補足3}
金子の外国人交渉は小僧さん時代に居留地の商人相手に鍛えられた。居留地は治外法権のうえ、横暴で不良の輩もいた。たとえば、若い金子を馬鹿にして、毎回樟脳の目方をごまかす。測量台に片足を乗せる不正に気づいた金子は、目方が間違っている、足を切って渡せ、と抗議した。以後正当な取り引きになった。後に金子は居留地の商館や外国人所有の建物が売りに出ると買い、寄宿舎や事務所に使った。商権回復、悪徳外国人勢力駆逐の思いだろう。

〈本来金子さんは政治家になられる人であった。国士型の人間である。重商と云うよりも寧ろ経世済民の士である。国策を考える事を念頭から離れない人である。土佐の産んだ経世家である。〉^{註1}

金子は『経済夜話』で述べている。

〈……経済生活と謂うものが、真に人間を動かし

た力であって、人を動かすものは決して権力ではなく、経済力である。〉^{註3}

金子は頑固一徹の印象があるが、機転が利き、ユーモアもある人だった。複数の銀行家と会食時、鈴木が樟脳を独占的に扱っていたことから、ひとりが笑顔で樟脳の屑を少しください、と申し出た。金子は真面目な顔で、明日届けましょう、あなたの金銀の屑と交換しましょう、と返した。

住田が入社以前の伝聞もあるが、どれも金子の実直さを象徴する話である。

住田は1947(昭和22)年から東京都副知事を勤めた。54(昭和29)年呉造船所社長に就任し、会長、相談役を歴任。海史研究も続け、56(昭和31)年に博士号を取得している。69(昭和44)年、日本船舶海洋工学会が住田の海史研究、造船業・海運業における功績を記念して、「住田正一海事賞」(海事奨励賞、海史史奨励賞)を創設した(2008年に海事技術奨励賞が加わる)。

住田が収集した海史史関係・地誌関係文献は神戸大学附属図書館「住田文庫」に、古瓦コレクションは東京都国分寺市の武蔵国分寺跡資料館に所蔵されている。

^{註1} ・写真 住田正一『桃園雑記』海文堂書店 1938年、神戸市立中央図書館蔵。 原文は旧字旧かな。書名は住田の住いが旧武蔵国桃園(東京都中野区)による。表紙の絵は『幼童家庭教育絵巻』(文部省発行、1874年)の西洋の偉人シリーズから「綿花織機発明ヘイルマン」。なぜこの絵かの説明はないが、「物の考え方」で人間の頭脳の発達と事業への応用を述べている。

^{註2} 神戸新聞社編『火輪の海——松方幸次郎とその時代——上・下』神戸新聞総合出版センター 1989～90年

^{註3} 金子直吉『経済夜話』巖松堂書店 1924年
^{補足1} 金子古希の祝い。金子は礼状に一首添えた。「幸に盗人に似ず我姿 友の恵みの有難きかな。胸像は彫刻家・本山白雲作。高村光雲の弟子で、高知県桂浜の坂本龍馬銅像もこの人の作品。(鍋島高明『大番頭 金子直吉』高知新聞社、2013年)
^{補足2} 薄田泣菫(1877～1945年、岡山県出身)は詩人として名を成した後、1912年大阪毎日新聞入社。15年から同紙に連載した随筆「茶話(ちゃばなし)」が人気を博した。「茶話」でも金子を取り上げている。

^{補足3} 船鉄交換交渉は継続していて、鈴木商店焼打ち当夜、金子はモリスとの会談のため夜行列車で東京に向かっていた。静岡駅で焼打ちの電報を受け取り、そのまま東京に行きモリスと会い、また夜行で神戸に戻った。(城山三郎『鼠』より)



出来事ファイル (No.18-12)

■蒸気機関車でまちおこし

10月12日(金)午後2時からあいあいネット神戸で開かれたもとまちハーバー懇談会で、元国鉄マンの飯野浩三さんから話を聞いた。神戸駅前にあるD511072は日本車両名古屋工場製で1944年2月の製造、客車・貨車とも牽引した実績がある。地域おこしに活用されるときは、ライトアップや屋台設定など協力させていただきますよ、との案内も。



D511072

■モトマチワインアベニュー

10月26日(金)と27日(土)の2日間、元町3丁目商店街ではワインアベニューを開催した。昨年は3丁目東側だけに会場を設定したが、今年は西の方にまで赤いカーペットが敷かれ、12の店がワインや料理を提供した。来場者はビーフストロガノフやキッシュなど、来客用の粋なテーブルを囲み、元町商店街で、ひと味違う世界のワインを楽しんでいた。



モトマチワインアベニュー

■亀井堂総本店バターサンド開発

元町6丁目商店街にある亀井堂総本店は、「かわら煎餅」発祥の店。初代店主が、洋菓子の素材で日本風の煎餅に仕上げたことから当時の人には珍しく、一躍、人気のせんべいに。5代目の松井隆昌さんは、創業者が生きていたらどんなものを作るだろうと考えて取り組んだのがバターサンド。元町まで足を運んでもらいたいと、バターサンドは6丁目亀井堂本店限定で販売中。(神戸市広報紙K OBEより)



6丁目・亀井堂本店限定販売のバターサンド

■大学生が見つけた兵庫の魅力

神戸学院大学経営学部・辻幸恵教授のゼミで、学生がテーマに取り上げた「商店街を通して大学生が見つけた兵庫の魅力」店のひとつに、元町商店街6丁目の、土鍋で淹れるコーヒーが人気の「Norari & Kurari」もランクイン。店主から学生に向けてのメッセージは「3年など区切りをつけ、続けてみることで見てくることもあると思うので頑張って!」



COFFEE Norari & kurari

■消防第6分団詰所新築決まる

三宮から元町全域を管轄する消防第6分団の詰所が元町通3丁目6-4番地に新築されることになった。11月から工事にかり平成31年2月完成の予定。現在、消防第6分団の資材置き場を撤去した跡地に新築するもので、鉄骨造り2階建てで広さは53㎡。1階は器具庫として使用し、2階に会議室、ミニキッチン、トイレを備えた第6分団の基地になる。



消防第6分団詰所新築予定地

■元町商店街のハローウィン

10月28日(日)はハローウィンの日。元町1番街商店街では15時から仮装ダンスパレードで賑いを見せたほか、3丁目では12時から恒例の子供向けフェイスペイントに仮装撮影会、宝探して賑わった。4丁目は12時から小学生までの子供さんを対象に「ハロウィンKIDS工作教室を開催。6丁目では11時30分から、未就園児によるパレードでまちを盛り上げた。



3丁目・フェイスペイント風景

■新潟から元町商店街視察団

10月25日(金)新潟市商工会議所が同市の商店主17名をまとめた神戸視察団が元町商店街を訪れた。午後4時、6丁目から元町商店街や栄町通など見学のあと1番街にある日本競馬会会議室に到着、まちなみ委員会の奈良山貴士委員が、元町地域の人口推移とJR・私鉄の元町駅乗降客数などを資料に、元町商店街を取り巻く現状を紹介、質疑にも対応した。



新潟市商工会議所視察団

■元町ちびっ子宝探し

元町商店街では11月3日(土)午前11時～午後4時まで、小学生以下の子供とその父兄親子による宝探しを行った。参加者は先着順に親子300組に限定。元町1番街商店街から6丁目まで設けたスタンプポイントのうち、3か所以上でスタンプを集めカードを完成、ゴールに持ち込んだ子どもたちに、元町のお菓子やシールなど、参加者全員に賞品が贈られた。



元町ちびっ子宝探し

□読者プレゼント

明治末から昭和初期にかけて活躍した竹久夢二は、華奢で儂げな姿で「夢二式美人」と呼ばれて人気を博し、図案や装飾など、デザイン分野にもその才能を遺憾なく発揮しました。夢二の肉筆画や木版画、夢二デザインの楽譜や雑誌、装丁本などを紹介する展覧会です。

鑑賞ご希望の方は、住所・氏名・年齢・本紙へのひと言を添えて編集部まで。先着順で5組の方にペア招待券をお送りします。

期間：1月4日(金)～2月3日(日)
会場：明石市立文化博物館
電話：078-918-5400



「婦人グラフ 新年号表紙」オフセット 大正15(1926)年 ©港屋